

山形県感染症発生情報

第2週(平成21年1月5日～平成21年1月11日)

疾患名	報告数	増減	特記事項
(小児科定点 29)			
RSウイルス感染症	1	▼	
咽頭結膜熱	10	△	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	80	△	多発中
感染性胃腸炎	352	△	多発中
水痘	169	△	多発中
手足口病	13	△	
伝染性紅斑	3	△	
突発性発しん	17	△	
百日咳	0		
ヘルパンギーナ	0		
流行性耳下腺炎	47	△	
(インフルエンザ定点 47)			
インフルエンザ	682	△	多発中
(眼科定点 8)			
急性出血性結膜炎	0		
流行性角結膜炎	0		
(基幹定点 10)			
クラミジア肺炎	0		
細菌性髄膜炎	1	△	
マイコプラズマ肺炎	5	▲	
無菌性髄膜炎	0		

(▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少、多発中:報告数50名以上)

疾患名	報告数			累積報告数 *2009年1月から	
	第2週	1週前	2週前		
2類感染症	結核	6	1	2	7
3類感染症	コレラ	0	0	0	0
	細菌性赤痢	0	0	0	0
	腸管出血性大腸菌感染症	0	5	1	5
	パラチフス	0	0	0	0
4.5類感染症	E型肝炎	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0
	つつが虫病	0	0	0	0
	ライム病	0	0	0	0
	レジオネラ症	0	0	0	0
	アメーバ赤痢	0	0	0	0
	ウイルス性肝炎	0	0	0	0
	急性脳炎	0	0	0	0
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	0
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0
	ジアルジア症	0	0	0	0
	髄膜炎菌性髄膜炎	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	0
	破傷風	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0
風しん	0	0	0	0	
麻しん	0	0	2	0	

- インフルエンザは、今シーズン流行開始時期が例年より早かったこともあり、同時期の患者数は過去10年の中で最も多く、警戒が必要である。1月8日以降、県内17施設から集団発生の情報が寄せられている。迅速キットによる陽性例では、各地区ともにA型が多く検出されている。山形県衛生研究所で12月中旬以降に採取した検体からAソ連型、B型が多く分離されている。ワクチンの接種や手洗い、うがいの励行、マスクの着用など予防対策が重要である。
- 感染性胃腸炎は、県内全域で流行している。患者は1歳をピークとし1～3歳が中心であるが、年齢幅は広い。今年ノロウイルスによる食中毒がすでに2件発生しており、県は1月10日から1ヶ月間、ノロウイルス食中毒注意報を発令した。ヒトからヒトへの感染力が強いいため、感染者の嘔吐物や便の処理には十分注意するとともに、手洗いの徹底が重要。
- 水痘は、各地区とも例年より多く報告されているが、特に置賜地区で増加している。患者は、1～6歳が中心。本県の定点当たり報告数は全国で最も多い状態で推移している。
- 流行性耳下腺炎は、庄内地区と置賜地区で急増している。特に酒田地区で流行しており、庄内地区から報告があった23名中22名が酒田地区からの報告であった。
- 結核は、患者が村山地区から3名(東南村山2、西村山1)、置賜地区から2名(東南置賜2)、疑似症患者が庄内地区から1名(田川1)、計6名報告された。
- 細菌性髄膜炎の患者が、庄内地区から1名報告された(病原体:肺炎球菌)。
 - 平成21年第1週分として、村山地区からマイコプラズマ肺炎患者1名が追加報告された。
 - 平成20年第52週分として、村山地区から麻しん患者1名(67歳 女性)が追加報告された。
 - 庄内地区のインフルエンザ定点と小児科定点は、1医療機関が休診であったため、通常より1ヶ所少ない定点医療機関数で集計されている。

(1月14日現在 山形県衛生研究所)